

## 第4回 町田市最終処分場周辺環境保全協議会の議事要旨

開催日時：平成22年7月8日(木) 18:10~20:30

開催場所：町田市リサイクル文化センター研修室

参加者：(委員) 小川 由一[会長]、関口 孝夫、小山 宰正、新井 堅司、高橋 清人、

深谷 修司、木野 直美、宗田 隆由、田後 真人

(アドバイザー) 梶山 正三、関口 鉄夫

(事務局) 内山 重雄、加藤 保、千葉 雅英、菊池 賢治、坂本 宏美、黒須 桂子、

鶴長 文憲、鈴木 大輔、末廣 多恵子、澁谷 誠志

(傍聴者) 1名

(敬称略)

主な議事内容を以下に示す。

### 1. 前回議事録の確認

- ① 事務局より前回議事録の説明を行い、了承を得た。

### 2. 対策工事経過報告について

- ① 次回の浚渫の予定はいつ頃なのか。

⇒ 浚渫は基本的には年1回行うこととしている。来年度予算をとるため、来年度早々の予定である。

- ② 今回の工事で整備した水路において、流量の恒久的な連続測定は実施するのか。

⇒ 調整池の水収支については、今年度の中で一定の期間を設け、水量を測定する予定である。

⇒ 浸出水については、流量計を設置して水量を把握し、日照時間から蒸発散量を推計し、埋立地の水収支の算出を行う予定である。

- ③ 階段水路から調整池に流入する箇所については、調整池側の補強はしているのか。調整池の法面が剥離する可能性があるため、流入口付近は補強しておくべきでは。

⇒ 現在のところ、特に補強はしていない。目地の様子を浚渫時に確認し、必要であれば補強を実施する。

- ④ 峠谷において表面の遮水シートは補修しているが、埋め立てられている箇所の遮水シートの健全性の確認は行ったのだろうか。峠谷の法面の遮水シートのみを補修しても意味がないのではないだろうか。

⇒ すでに埋まっている遮水シートについては、健全性の確認を直接行うことは難しいと考えており、DS1層の地下水の水質をモニタリングすることにより、処分場の影響を確認している。

⇒ 今後、峠谷の工事の影響がMB. No 9、11、13あたりに出てくる可能性があるため、充分注視すること。

⑤ 峠谷に埋めた浚渫汚泥から水分が出てこないか。

⇒ 浚渫汚泥はセメント固化処理を行い、含水比が小さい状態でトンパックに入れているため、水分が出ることは無いと考えられる。また、不透水性のトンパックに入れているため、水分が入ることも無いと考えられる。

### 3. 今後のモニタリング計画(案)について

① 以前、調整池の浚渫を見学した際に集水塔にて湧水と思われる大量の水の流れがあった。調整池の水の流れについてはどうなっているのか。

⇒ 前回浚渫を行った際に、不明な水の流れがあることが判明した。今年度は調整池の流れや流量等の出来る限りの調査を行い、次回浚渫を行う際に、再度調査をかけたいと思っている。

② 底質のダイオキシン類、重金属については、細粒分に多く含まれる可能性があり、採取試料の粒度分布により大きく変わる可能性がある。底質の粒度分布も同時に行ったほうがよいのではないか。また、1~2回/年という測定頻度は少ないと考えられるため、鉛、砒素といった重金属のみで、頻度をあげて測定を行えないだろうか。

③ 鉛、砒素などの重金属の量からダイオキシン類の量は推定できるのか。出来ないのであれば、ダイオキシン類のデータを測定して欲しい。

⇒ 重金属の量からダイオキシン類量の推定は難しいと考えられる。

⇒ ダイオキシン類については計画の通り2回/年の測定を考えている。鉛等の重金属の測定頻度については頻度をあげることも検討したい。

④ ダイオキシン類の測定結果を提示する際に、同族異性体の測定結果も評価材料になるため、添付してほしい。

⑤ 同族異性体の測定結果を示すときには、百分比ではなく対数表を用いた結果として欲しい。

⇒ 検討します。

⑥ MBNO.17については、水質は測定せず、ガスのみ測定なのか。

⇒ MBNO.17の深度はごみ層まで設置しており、DS1層には達しておらず、水質により周辺環境への影響を確認できる地点ではない。昨年度の水質分析もごみ層内の水質を確認するために試行で行なったものである。旧埋立地の安定化をみるためにガスの分析は継続していくが、旧埋立地の水質等の調査は、箇所等についても覆土工事が終了する来年度以降計画し、調査を行っていく。

⑦ 生態の影響については、ダイオキシン類ではなく、鉛や砒素等の重金属で実施して欲しい。

⑧ 調整池のダイオキシン類、重金属のモニタリングの考え方として、水は変動が大きく、長期的な傾向をみるという観点からは適さない。底質は水ほどは変動は大きくないが、やはり、流れ出てしまうため、変動する。長期的な蓄積をみるのであれば、活性炭の

カラム等を沈めて吸着させるという方法がある。生態調査も考えられるが、生物は個体差が有り、試料の選び方が難しい。

- ⑨ 周辺の民家井戸については、DS1 層の井戸が少ないため、「どぜうの会」で新たな井戸を探している状況であるため、市も協力して欲しい。また、見つかった際には測定箇所等を増やして調査をして欲しい。

⇒ より良い井戸が見つかった際に組み替えることは可能である。

- ⑩ 連続測定の項目について、峠谷周辺の地下水の塩化物濃度が昨年度は上昇傾向にあり、周辺井戸水についても塩化物濃度が高めな傾向が見られることから、塩化物イオンを追加することは出来ないだろうか。

⇒ 検討する。

- ⑪ 本日ご意見をいただいた点については、参考として計画を見直すことも検討したいが、基本的には本モニタリング計画で進めさせて欲しい。

#### 4. モニタリング結果について

- ① 土壌の分析については溶出試験の方法が環境省の告示 13 号または 46 号のやり方、含有量分析が土壌汚染対策法のやり方であれば、低めに出る傾向にあるため、別のやり方を選択した方がいいのではないか。
- ② 連続測定の結果をみると、雨水と電気伝導率が連動している。今後、最終覆土を行うことにより、雨水がシャットアウトされるため、連動は小さくなっていくと考えられる。そういった観点から評価していくこと。
- ③ モニタリング結果については連続測定結果を主にし、年 4 回項目等のスポットでの測定結果を追記する形で記載して欲しい。

#### 5. その他

- ① 協議会の資料はできるだけ事前配布をして欲しい。

⇒ 了解しました。

以上